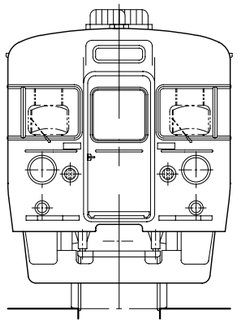
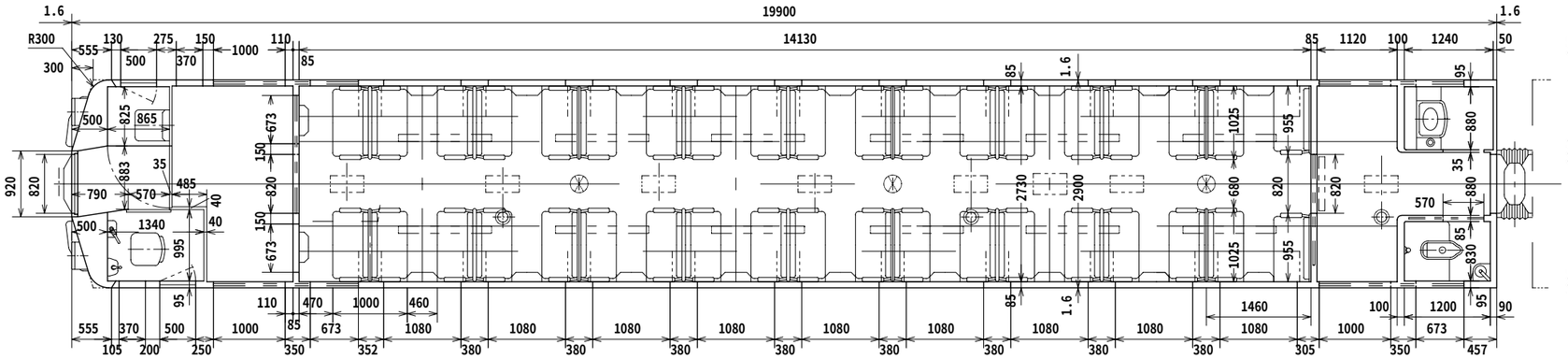
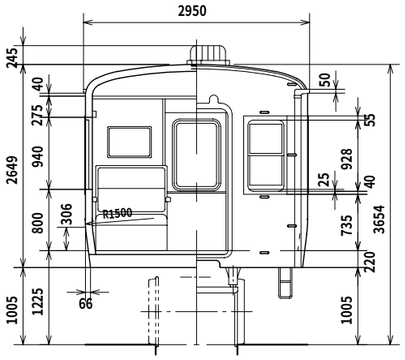
<東海型　153系>

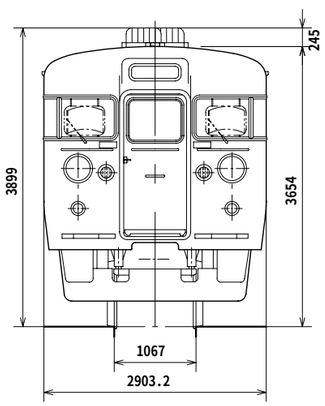
国鉄　クハ153型　形式図

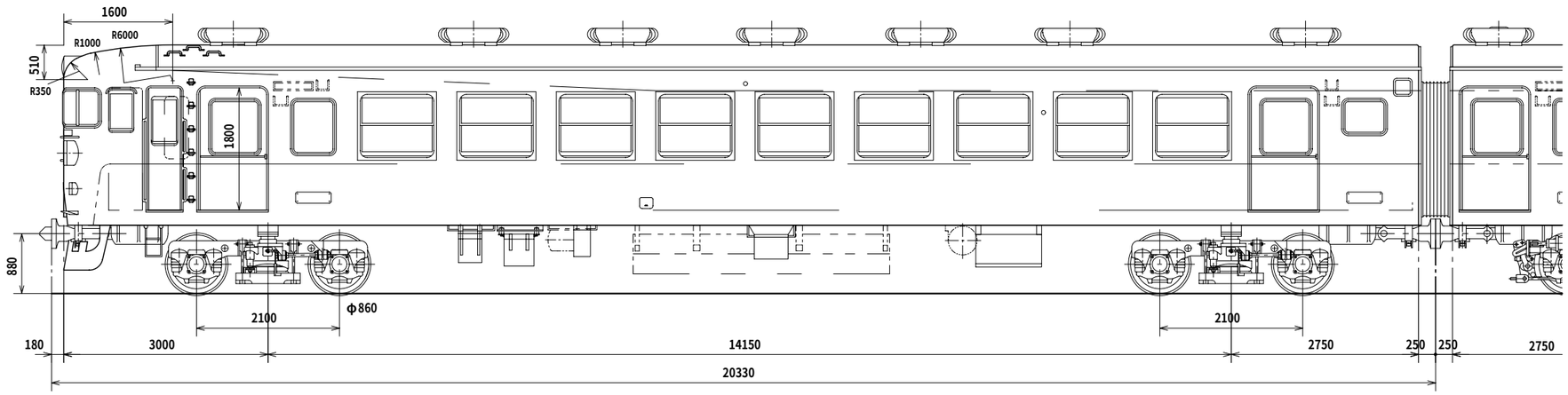


クハ153(旧)正面図









1958年、こだま型と同時に誕生した車輌
当時はクハ96、モハ91、サロ95、サハ97と呼ばれたが、間もなくクハ153、モハ153、モハ152、サロ153、サハ153となり、
その後サロ152、サハシ153が追加され、東海型153系として約630輌の勢力を誇るようになった
通勤型101系、特急用151系(こだま型)と並んで国電近代化の先陣を切ったグループである
前頭部のスタイルなどは、その後多くの車輌に引き継がれた
塗色は湘南型と同じグリーンとオレンジ
同系に勾配用165系や修学旅行用155、159系がある

クハ153　　先頭車として東海型の象徴ともいえる形式
前頭部がクハ86の流線型とは一変して貫通式を採用、とかも2個ヘッドライト、パノラミックウインドウなど、国鉄車輌に新風を
吹き込んだデザインとなっている
1961年製からはナンバーを500番代として区別し、運転台を上げ、前面窓も高窓となって、また新しい味を出した
図はその後期のタイプを主とし、初期の姿は前面のみを示した

モハ152　　このシリーズの電動車はパンタ付のモハ152とパンタ無しのモハ153が固定連結されて1ユニットになる
両者の車体はパンタの有無と、それに伴うベンチレータ1個の有無のほかは変わらず、床下機器が大きく違っている
そこで、ここではモハ152の全体を示し、モハ153は床下のみにとどめた
また、サハ153はモハ153と同じ車体なので、そのうちの100番代の床下も加えてある